



郷小だより

5月号

2021. 4. 30



学校教育目標 ～支えあう・聴きあう・学びあう～
 子どもたちが自分を再発見し、友だちを再発見し、学ぶことの価値と意味を再発見して「人生最高の6年間」を生み出す学校、そして、その営みを通して教師も親もともに育ちあう学びの共同体としての学校でありたい。

『未来を創る、よりよい生活習慣。』

校長 高橋 励

ヨチヨチの新米校長として、1年生と一緒に4月ひとつきを浜之郷小学校で暮らしてきました。朝、正門前でしゃがんで（立ったままだと目線が合わない…）いると、たくさんの発見がありました。

まず、2年生以上の児童の多くが、とても「やさしい心根」を持っているなあ、ということ。登校時に下級生にとってもさりげなく寄り添いながら、その行動を見守ることができるのです。下級生のペースに寄り添って何気なくサポートしている児童がどれほどいることか。おうちの人と離れて学校まで歩いてくる道のりが「大冒険」という1年生も、おそらく思うようになりますが、下手な大人（例えば、余裕のないときの私）より、よほどミゴトにお手本のような接し方を見せてくれます。

次に、「すてきな習慣」を身に付けている人（＝例えば、からだや顔をきちんと相手に向けて、目を合わせて、元気だけれどやさしさのある声にほほえみを添えて、あいさつを届けてくれる人）が、1年生も言めてたくさんいます。

習慣は「知っているからできる」というものではなく、「体と心が、そうするようになっていくからする」こと。とても価値のあるものを得ている人たちだなあ、と感じています。

…そういえば、去年突然生まれたコトバに「新しい生活様式」というものがありました。新型コロナウイルスの感染状況の変動が気になるころですが、リスクを減らすための行動変容として一人ひとりの「わたし」に求められていることは、この1年間あまり変わっていないように思えます。まずは、3密の回避。マスク着用と手洗いの励行…。家庭も学校も、そして社会も「平成時代」には戻りません。新しい生活様式は、いずれ「当たり前」といわれるものになっていきます。「習慣」として自然に身に付けていくのであれば、ぜひ「すてきな習慣」となるようにしたいものだと思います。

習慣は教えられればそうふるまえるというものではないと思っています。ですから、すてきなあいさつができる人は、（おそらく）すてきなあいさつができる大人に接してきたのだと思うのです。

浜之郷小の子どもたちによりふるまいを示してくださった皆さんに感謝します。そして、私もこれから、郷小スタッフとともに、コロナ禍を乗り越えるための「よりよい生活習慣」となるような、あたたかくてやさしくてすてきなふるまいを示せるように、心がけていきたいと思っています。ご家庭でも一緒にお願いいたします。

【保護者の皆様へ】4月から朝の開門は8時。でも、7時半を過ぎると集まり始め、5分前には30人弱の塊が道に！「早起き・遅刻なし」はよい習慣ですが、「いってらっしゃい」の時間調整をお願いします。